



スイカの育て方



〈1〉畑の準備・植付け

日当たりと水はけのよい場所を選びます。粗(あら)起こしのとき、1m²当たり2~3kgの堆肥(たいひ)と、つる割病予防に100gの苦土石灰を一緒に施し、深く耕してpHの調整をしておきます。購入苗を利用する時は、接ぎ木苗でガッチリと育ったものを選んでください。ポットへは前日に十分水やりをしておき、植え付け時の根鉢の崩れを防ぎます。植え付け時期が早い場合、マルチングだけでなく、ホットキャップをかぶせて保温してやります。株間には主枝の間配り方によって決めます。根鉢の表面が見える程度の浅植えにしておきます。

〈2〉整枝・摘果

本葉が6枚のころに摘芯して、子づるの発生を促します。子づるが伸びてきたら、生育のそろったものを3~4本残し、あとは摘み取ります。大玉スイカの場合は、子づるから出る孫づるは着果節くらいまでは摘み取り、それ以降は放任しますが、小玉スイカの場合は、葉面積を確保する意味から、よほど茂りすぎない限り、孫づるは放任しておきます。つるが伸びてきたら、両側に敷きわらをしき、左右交互につるを配置します。果実が野球のボール大になったころ、やや長めの形のよいものを残して、1枝1個に摘果します。放任栽培では特に摘果の必要はありません。ソフトボール大になったころ、果実を正座させて色つきをそろえます。一般的に大玉種は3~4本、小玉種は5~6本くらいのつるを伸ばすようにして摘芯する。大玉種は第2果を大きく育てて収穫、小玉種はつるを6本伸ばし、それぞれに2果、計12個の実を収穫します。

〈3〉人口受粉

子づるには7~8節ころから雌花が5~6節おきにつきます。着果を確実にするため、雌花が咲いたら、午前10時ころまでに丁寧に人工受粉をしておきます。

〈4〉追肥・敷きわら

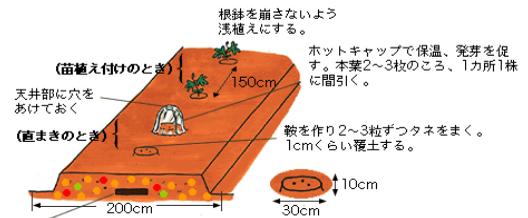
生育状況や開花の様相によって追肥の要領を変えます。標準的には、苗が活着してつるが伸び出したころに1回目、果実が野球ボール大になったころに2回目を与えます。それぞれつる先あたりに施して覆土をしておきます。つるが伸び出したら、順次敷きわらを広げ、泥のはね返りや地温の上昇を抑えます。ポリのマルチングをしたときも、巻きひげがからむところがないので、風でつるが吹き回されないように、軽く敷きわらをします。

〈5〉収穫

人工交配したとき、日付けを記入したラベルをつけておき、交配から1番果は40日ほど、2番果で30~35日経過したものを収穫します。その他、果実のついている節の巻きひげが枯れてきたころ、果実の花落ち部がくぼんで、押さえると弾力を感じるようになったころなどを目安に収穫します。

地ごしらえ、植え付け

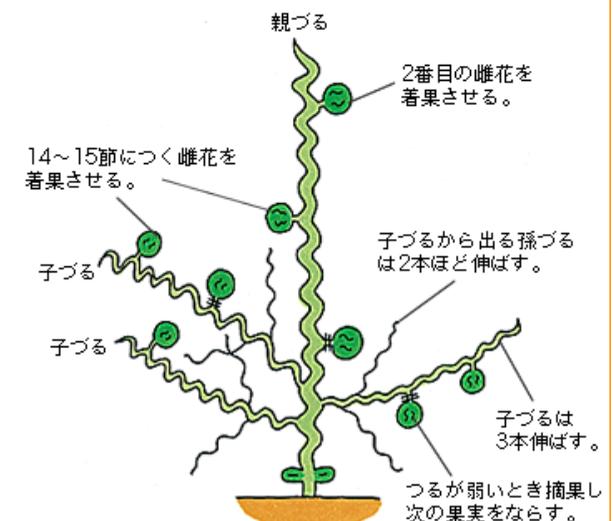
つるが伸びてきたら敷きわらをする。



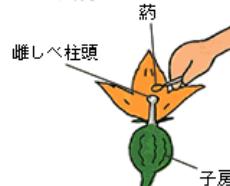
- ①粗起こし ● 堆肥 1m²当たり2~3kg
- pH調整 苦土石灰・・・1m²当たり100g
- ②元肥 ● 化成肥料(N:P:K=8:8:8)・・・1m²当たり150gを全層と心肥に



大玉スイカの整枝の仕方



人工受粉



午前10時ころまでに当日咲いた雌花の柱頭に当日咲いた雄花の花粉を雌しべの先にまんべんなくつけておく。

